

# 平成5年度東部瀬戸内海シャットネラ赤潮広域共同調査（抄録）

湯浅明彦・吉田正雄・酒井基介

本調査は、東部瀬戸内海の水塊構造と水塊の動き並びにシャットネラ栄養細胞の初期発生、増殖及びその他のプランクトンの動向について、全体像を立体的に把握し、赤潮発生要因を明らかにするとともに、赤潮発生予察技術の確立を図ることを目的としている。昭和63年から播磨灘関係4県・水産庁及び民間の各機関と共同調査を継続して実施してきたが、本年度が最終年度である。

平成5年度における徳島県担当水域である播磨灘南東部での気象、海象及びプランクトンの出現動向について取りまとめたのでその概要を報告する。なお、詳細については「平成5年度赤潮対策技術開発試験、東部瀬戸内海シャットネラ赤潮広域共同調査報告書」を参照されたい。

## 1. 気 象

本年の7、8月の気象は多雨（平年比で降水量230%）、日照不足（平年比日照時間59%）であった。気温は梅雨明けが遅れたために7月中旬から8月中旬まで平年より低めで推移し、8月下旬になって平年より高めになった。また6月下旬から8月上旬の間に相次いで4つの台風が通過し、海況に大きな影響を与えた。

## 2. 海 象

本年7、8月の水温は期間を通じて平年より低めで推移し、表層で2~3℃、底層で1℃前後低く推移した。塩分は6月下旬以降低下し8月にはほぼ29~30で推移した。

## 3. プランクトンの出現動向

シャットネラは6月24日が初検出日であった。増殖のピークは7月13日、7月26日、8月6日、9月2日に見られたが赤潮を形成することはなかった。最高出現数は8月6日の4.04cells/mlであった。本年は日照不足と台風の通過による海況の不安定によりシャットネラの増殖が抑制された。その他のプランクトンでは、珪藻が7月10日、8月26日前後に増殖したが出現数は全般的に低調であった。シャットネラと同様珪藻類についても全般的に増殖に不適な環境であった。しかし、天候が安定し日照量が確保された時に急速な増殖を示し、シャットネラの増殖を阻害したことが考えられた。